

# 平成18年度宮古群島病害虫発生予報第5号(8月予報)

## 8月の気象予報

### 要素別予報

要素	気温	降水量	日照時間
予報	高	並	並～多

(平成18年7月28日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

### 地点別の平年値

要素	平均気温( )	最高気温( )	最低気温( )	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	28.1	30.9	25.8	252.0	224.0

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

## 8月の発生予報 および防除上の注意事項

向こう1ヶ月間に農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

### 宮古群島

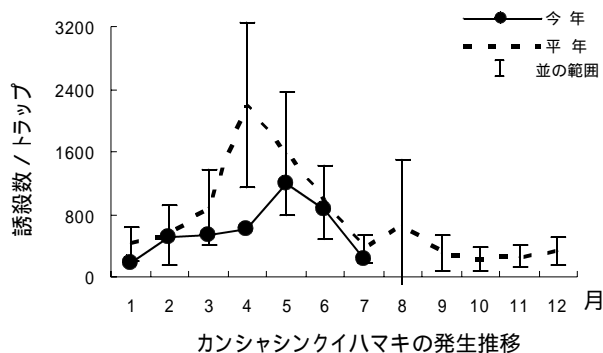
#### 1 さとうきび

##### (1)メイチュウ類

発生程度 : 並

予報の根拠

- a 7月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモンによるトラップ当たりの誘殺虫数は239頭(前年93.6頭、平年349頭)と平年並であった。
- b 気象予報によると、向こう1ヶ月の気温は平年より高くなる見込み。



#### 防除上注意すべき事項

- a ふ化した幼虫は、夏植された苗の葉裏および葉鞘部から下部に移動し、芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯を起こさせ茎を枯死させる。
- b 夏植の生育初期の加害による芯枯防止を狙い、食入初期の幼虫を対象にした重点防除を行う。
- c 防除は植付時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選定し施用する。

#### 野その防除対策について

- a 7月中旬(台風3号上陸直後)における調査の結果、池間島でのみ被害がみられた。
- b 被害茎率は1.4%(前年同月0%)であり、例年より被害が早くみられた。
- c 被害は圃場周縁部でのみみられた。
- d 例年航空防除が実施されるが、被害の多い圃場では地上防除を併用する。

### イナゴ類の防除対策について

- a 7月下旬(台風4号上陸後)における見取り調査の結果、例年発生が多い狩俣・島尻地域においてイナゴ類の発生が見られ、さとうきびの葉が多く食害されていた。
- b 種類はヒゲマダライナゴ成虫が多く、タイワンツチイナゴ幼虫・成虫、ツチイナゴ幼虫も見られた。
- c 若齢幼虫の発生源となる圃場および周辺の雑草防除を行う。
- d 薬剤散布の際は、近隣作物へのドリフト(飛散)に注意する。

## 2 マンゴー

### 収穫後の病害虫防除対策について

- a 開花期から収穫期までは薬剤による病害虫防除が出来ないことから、新葉には炭疽病、軸腐病、チャノキイロアザミウマ、マンゴーキジラミ、ドクガ類、ナカジロフサヤガ、マンゴーハフクレタマバエが、成葉にはマンゴーツメハダニ、カイガラムシ類等の病害虫が多く発生する。
- b 収穫後、結果枝を切返して発生する夏秋梢と花痕枝が次年度の結果母枝となることから、本母枝の充実度は来年の収量・品質に大きく影響する。この時期の病害虫防除は、栽培管理とともに重要である。
- c アザミウマ類や、ハダニ類、カイガラムシ類などの微小害虫は一般的に風雨に弱いことから、収穫を終えた施設は、樹勢回復も兼ねて、早めに被覆ビニールを取り除く。
- d 剪定を行った後の残渣は、病害虫の発生源となるため、施設外に持ち出し処分する。
- e 病害虫発生技術情報1号(平成18年8月1日付け)参照。